

大町労働山だより



VOL.1-NO9

2022 2/28

大町労働者山の会

山行報告

南鷹狩山へスノーシュー(唐花見湿原駐車場から)

2022/2/4 参加者 秀さん・尾形・古畑孝・文子・いくババ

唐花見湿原 9:15→鷹狩山展望台入口 11:05→南鷹狩山頂上
11:20~12:10→南鷹狩山展望台 12:25→南鷹狩山頂上 13:25
→鷹狩山展望台入口 → 唐花見湿原 13:45~14:10

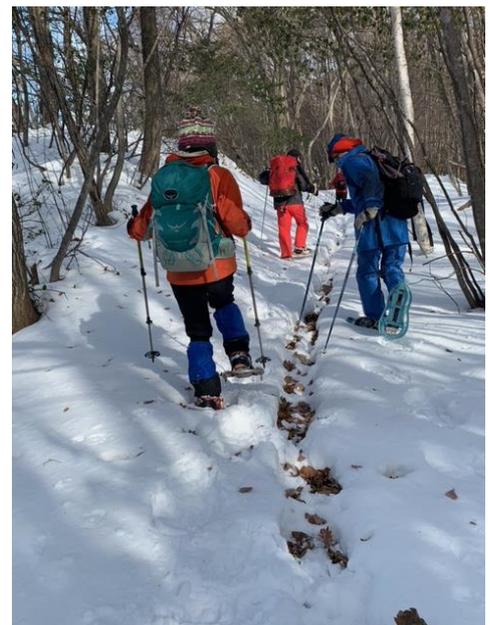
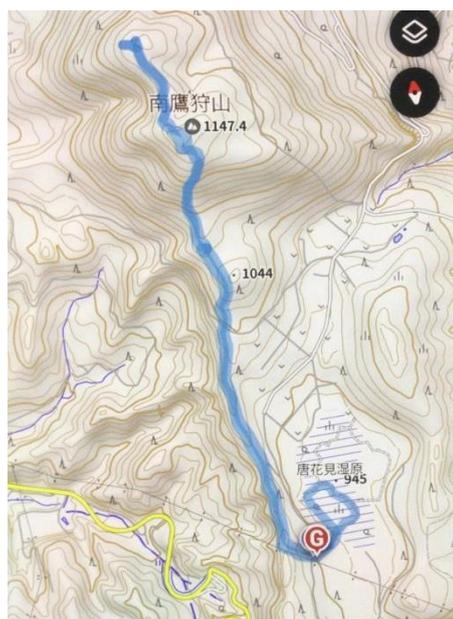
感想&報告・・・いくババ

9:15 出発で南鷹狩山到着が 11:05 になったため、鷹狩山頂上まで行かず南鷹狩山展望台から景色を見ながらの昼食とした。下山後唐花見湿原の木道を散策した。

スノーシューでしたが、雪質が良く人があまり入っていないため十分に楽しめました。雪の上の獣道がはっきりついていてところどころ獣の痕跡を見ることが出来ました。途中、斜度が有り雪が無い所も通りましたが、出来るだけ雪上を通るように迂回しました。南鷹狩山展望台からは北アルプスが望め、昼食タイムと

しました。鷹狩山まで向かう予定でしたが、時間がないので下山後唐花見湿原の散策としました。木道は人が入っていないため踏み締めが必要でした。

鷹狩山はきつい登り降りがあるので、わかんの方が扱い易いと思いました。



感想・・・秀さん 我が家を出る時に、白馬の山人さんから緊急事態で参加できないため、リーダーを頼まれました。ルート経験はありませんが生まれた在所で地形は分っていたので、引き受けましたが無風快晴とはいきませんが、お陰様で西山はしっかり見渡すことができました。南鷹狩山で昼食を食べ下山。早く下山出来たので唐花見湿原国道を一周して帰りました。大町博物館のルートと違って皆さんとても喜んで頂けました。次回は鷹狩山山頂まで行きたいと思います。・・・お詫び！！用意していた長靴を忘れたことに現地で気づき、古畑宅へ長靴を借りに戻り30分強ロスしてしまい、本当にごめんなさい(^ω^)・・・！！(ポケ老人を許して下さい)。楽しい山行をありがとうございました。・・・



感想・・・文子 私はワカンで参加しました。前回いつワカン履いたか記憶にないほど久しぶりです。天気も良く木々の間から見上げる空が美しく、気持ち良く歩けました、雪が少ない所はヤブで少々苦戦しましたが約2時間ほどで南鷹狩山山頂に着き大町を一望。下山はスノーシューよりワカンの方が歩きやすかったです。久しぶりにみんなでおしゃべりして笑って楽しい一日でした。



感想・・・孝信 南鷹狩山へのスノーシュー山行に参加をさせていただきました。ワカンで参加ですけど、何年かぶりのワカンですが、思った以上に調子良く歩くことができました。ケモノ道が圧雪され道の様になっていて歩きやすい所もありました。家から見える南鷹狩山に初めて行くことができ、とても良かった。

偵察山行「潮沢川と会田川の境にある尾根を歩く」(旧明科町から旧四賀村へ)

2022・2・9 じゅんちゃ・EIEI

今回のトレッキングは EIEI が長峰山であった登山者に刺激を受け偵察山行となった。



篠ノ井線廃線敷駐車場から出発することにする。会田川右岸側を歩き篠ノ井線橋梁の下を通過すると、以前森田さんたちと旧四賀村の村境を歩く「里山楽会・境界線」の仲間であったO氏が日差しを浴びて腰かけていた。13年振りの再会で感激した。80歳になられたようで両ストックで毎日散歩しているそうだ。O氏の知り合いの方が来たので天田神社への登り口を聞いてくれた。



教えていただいた山道をひたすら天田神社に向かう。神社下には林道が走っており、ここで休憩する。11時49分、天田神社に到着。立派な神社でここからの常念岳や後立山連峰が眺望できる。桜が植樹されており時季には花と眺望が楽しめる場所だ。神社から東へ尾根づたいに進む。当時は立派な道であったと思うが現在は倒木が目立った。スマホでジオグラフィカのアプリを使い尾根道を進む。

尾根の南側に向いている斜面は雪がないが潮沢側の北斜面は雪が解けず寒々としている。尾根道の日当たりの良い場所で昼食の弁当を広げる。今回の目的地は旧四賀村五輪平集落まで歩くことができればよいのであるが、帰りの事も考え神木平方面に尾根を下る。尾根を下ると神社があり集落があった事が確認できる。スマホで確認しながら進むと廃屋を発見。ここから細い道を歩き階段を登るとコンクリート舗装の道路に出た。廃屋を覗くと当時の生活が想像でき、いつ頃まで住んでいたのであろうと思いを巡らせる。日当たりが良い道路わきには福寿草が咲いていた。

堂平集落に向かう。道の上にはうっすら雪が積もってタイヤの跡があったので行ってみると軽トラがとまっており建物の修理をしていた初老の方と話をする。叔父の家で現在は誰も住んでいないが時々訪れると言っていた。初老の方の話だと、この集落はかつて25軒ほどあったが、現在住んでいる方は一軒のみで親子が住んでいるそうだ。この家の進入路で道は行き止まりとなっているので元の道に戻り、長野自動車道の高架橋の下を通って県道に出る。ここからひたすら県道を歩き、駐車した場所まで戻る。約24000歩の歩きとなったが、一日天気も良く気持ちの良い疲労感に包まれた。

追伸・・・EIEI

川崎の暮らしは長年田舎で生活していた者にとっては窮屈であった。早々に舞い戻ってきた。しかし、無職になって時間を持て余す生活も楽ではない。時間潰しにと明科の雲竜寺から長峰山に週に何度か登り、一人コーヒーを飲んだりランチを食べて帰ってくる。

そんなある日、下山中に話した男性から天田神社から四賀まで稜線上に歩けることを教えてもらう。早速家で地図を確認する。確かに道はある！！一人では心細いのでじゅんちやを誘った。こんな、冒険的な山歩きも地図や地形の見方の勉強になる。また、この道は善光寺裏街道とか。いにしえの道を歩くのもいい！！新しい山歩きができそうだ。

山書蒐集家と書店の思い出

じゅんちゃ

2002年に閉店した日米書院。53年の幕を下ろすに経営者の清野道子氏とお手伝いの佐藤英之氏と記念撮影。佐藤さんの札幌市にある自宅に電話したところ元気であった。



比較的冬季間は閑なので山の本を整理したりしている今日この頃である。山の本は松本市の古書店や東京に出た時に購入するのが常であった。

山の本の蒐集家として有名な方が小林義正氏で丸善に勤務されていた方であったが、高齢になり散逸されるのを恐れ一括購入している人を探していた。京都にあるイセト一(株)の社長小谷隆一さんが引き取り、その後旧制松本高校卒業生でもある小谷さんが信州大学付属図書館に約8000冊(自分で蒐集した山書も含む)を一括寄付されたのが平成15年である。

この蔵書公開の時にも信州大学付属図書館に見学に行った。また小谷さんの講演会にも参加した。次に有名なのは野口冬人氏であろう。野口さんの著書に「冬人庵書房・山岳書蒐集家の60年」があり、古書蒐集の苦労話が掲載されている。昭和8年生まれの方で約13000冊の蔵書を大分県の長湯温泉にある「林の中の小さな図書館」に納め展示公開されている。野口さんの人生をかけ力を注いで蒐集した山書を是非拝見したいと願っている。

次に欠かすことのできない方は上田茂春氏である。『山の本を求めて東奔西走』という著書があるがやはり野口さん同様、生涯をかけて山書の蒐集した方である。

次に日本山書の会の創立時の方で水野勉さんという有名な方がいる。国税庁に努めていた方で多くの著書もあり、英語をもちろん他の国の言語にも精通し翻訳していた方である。奥様が穂高出身であるのでお墓詣りの際、職場に寄っていただいたことが懐かしく思い出される。

本年2月早々、訃報のハガキが突然届きビックリした。先生が正月早々亡くなられた知らせであった。本当に残念で東京に出た時に阿佐ヶ谷の「穂高書房」で御会いしたのが初めてであった。

松本市の百瀬武さんは2000冊を松本市に貸し出したという記事が新聞に掲載されたので一度ご自宅に伺ったことがある。山書談議に時間を忘れ楽しい時間を過ごした。

全国には山書の蒐集家は多くいると思うが私は知らない。

扨て、書店について書こうと思う。松本市に遠兵というビルがあり、書店とか山道具等を販売していた。ここが私の山書蒐集の出発点かなと思っている。また老舗の鶴林堂という書店にも少しは山書を置いていた。良く通ったのは伊勢町にあった日米書院である。ここは山書関係が早く入って来ていたので良く顔をだした。伊勢町から少し入った所に慶林堂という古書店があり、毎回松本に出る度に本を確認した。また細田書店という古書店にも足蹴く通った。いずれの書店も現在は無い。寂しい限りだ。出版業界の不況と若い方の書籍離れが原因であろう。

次に東京にある書店について書こう。東京に出る度に古書店を回るのが何よりの楽しみであ

った。お茶の水の駅を降り明治大学方面に進むと茗溪堂という書店があり、景気が良い時には一階から4階まで書店であったが、本が売れず最後は3階で細々販売をしていた。店主の坂本さんは温厚な方で、沢山購入するので送料を負担してくれて自宅に送ってくれた。ここには著者のサイン本が沢山あり、時間を忘れ見たものである。残念ながら平成24年に逝去された。店は平成23年に閉店した。茗溪堂は本当に素晴らしい書籍を出版しており残念でならない。

次に神田神保町にある悠久堂に向かう。ここは山書専門店、田淵行男先生の著書等は鍵がかかったガラスケースに納まっていた。私が購入した頃が一番値段が高く、現在は山関係の古書は売れず相当安く販売されている。

御茶ノ水駅沿いの茗溪通りに〇〇書店がある。ここは沢山の古書があるのではないが、時々、掘り出し物の山書があり必ず寄った書店である。

次に阿佐ヶ谷にある「穂高書房」に顔を出し店主の和久井さんと話をするのが楽しみであった。山書の専門店、残念ながら鬼籍に入られた。

東大赤門前に森井書店がある。毎年目録を送っていただくが欲しい本は高額で手が出せないのが現在である。

書店が閉店していくのに時代の流れを感じるとともに一抹の寂しさを禁じえない今日この頃である。

1/22 柄山 & 2/4 南鷹狩山 スノーシュー

白馬の山人

年齢とともに「すくなし」になってくる。コロナ禍で「単独でも山へ！」という意欲はなかなかアップしない。しかし、行かなければ「行かない癖」がついて、いっそう「よっこらしょ」があがらないので、何とか自分を鼓舞する。ヘビーな山は体力的に次第に厳しくなりそうで、この冬は近場・地元の低山をスノーシューかわかんで開拓しようと思っている。ただ、行程さがないフラットなルートではなく、一般の人が入っていない、雪だからこそ行けるだろうというルートを地形図で探索する。頼りはYAMAPだ。

第一弾は地元白馬村の柄山へ行った、というより行こうとした。つまり途中敗退。

柄山峠は善光寺への古道の途中にあり、鬼無里へ抜ける。ヤマレコ等には春か秋の記録しか出ていない。つまり積雪期には入っていないのだが、地形図を見て行けそうな気がした。

1月中旬に、下見がてら野平（のだいら＝白馬村の地区名）の除雪してある終点にまで車で入った。雪の林道にはなんと足跡があるではないか。「人が入っている、これなら行けるかも」と、22日に知人を誘った。

暫くすると血痕がある。動物らしい。そして人のトレースは沢の方向に。不自然だ。もちろん林道にも足跡がある。知人は鉄砲撃ちかもしれないと。沢を登ろうと考えたが、両サイドにはかなりの積雪があり、雪崩の不安があったのでやめて、林道を下る。途中でトレースは消えている。林道の山側斜面が緩いあたりから入山するつもりが、なかなかの傾斜で、事前に地形図で調べたときは行けそうな気がしたのだが、とても登るのは困難だ。かなり林道を行くと民家があった。もちろん人は住んではいないが、夏には何かイベントをやっているらしい。

尾根の傾斜が緩くなったのでようやく入山。休憩の後、ゆっくり踏みしめていく。地図を見ると柄山はまだまだずいぶん先だ。このまま尾根を登っていけば行けそうだが、昼になってしまったので、引き返す。

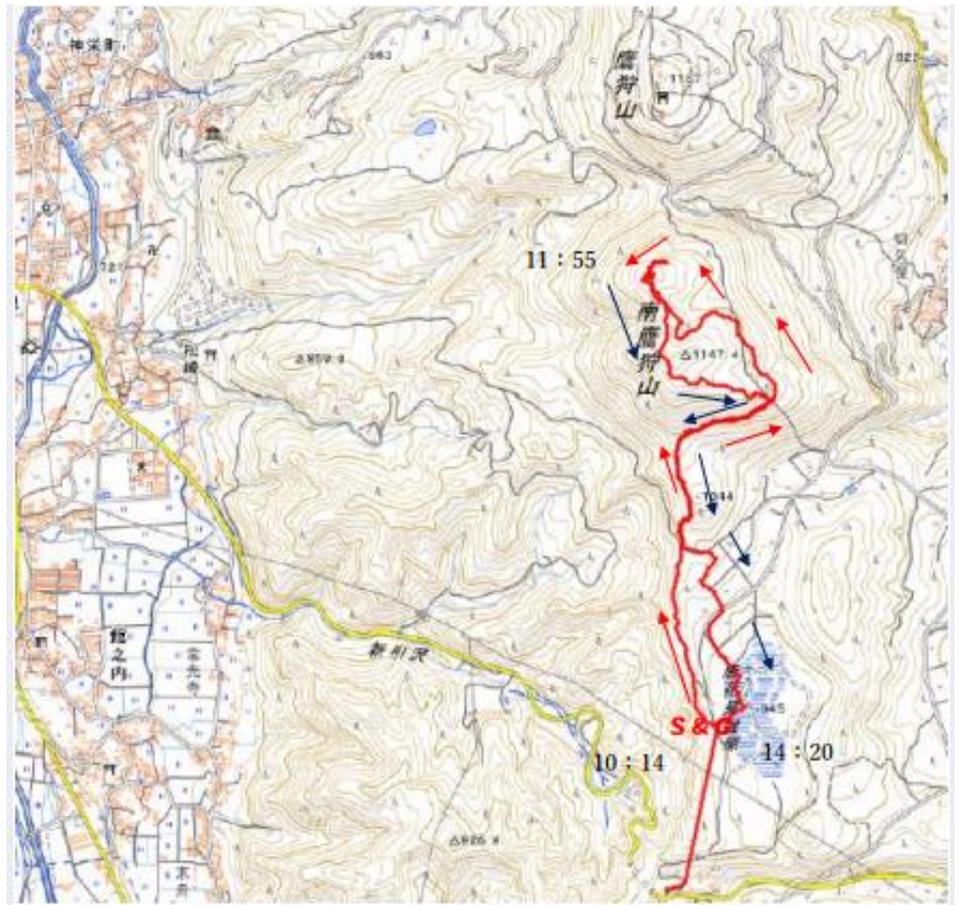
林道にでて、しばらくすると猟師に出会った。やはり、そう両氏のトレースだったのだ。柄山を目指したけど断念して引き返したという、登りはこっちだよと、全く違うルートを教えてくれた。もちろん雪で覆われトレースはない。スタートから間違っていたようだ。かなり遠そう。たしかに夏道＝古道らしいが、これが雪道で誰も入っていない。スノーシューとはいえラッセルだ。今年は雪が多いので、4月ころ日が長くなってから、もっと早立ちすれば可能かもしれないので、いつかリベンジしたい。

鷹狩山へは会員からスノーシューで行った話を聞くが、唐花見湿原から登った話はない。地形図で見ると尾根づたいに行けそうな気がしたので、会員に呼び掛けた。ところが計画した2月4日、家族のハプニングで行けなくなった（秀さんら5人が行った）。

行く気で計画したことが、理由はどうあれ行けなくなったときは、おそらく誰でも「行ってやる」となるのではないかと、2月9日単独でアタック。湿原から入って南鷹狩山から鷹狩山へ、そして山岳センターまで行けないか、当然その場合、車は2台必要。最初の計画の前にAさんに相談したらきついのではないかと、当初計画は鷹狩山でUターン。先の5人は南鷹狩山の少し先で引き返したようだった。

単独では、どうしても自分に甘くなって家を出る時間も遅い。はじめての雪の唐花見湿原。湿原入り口の駐車場より奥も除雪されていた（この道は横に入る林道はところどころで除雪がされず行き止まりだが、本線は美麻まで続く生活道路らしく、ずっと除雪されていた）のでどんどん進んで入山口の判断を誤り、湿原入り口まで戻って車が置けそうなところを探す。

誰も歩いていないが、明瞭なトレースがある。たぶん先日のわが会員の足跡だろうと思われた。思っていた以上に林道が入っているため、それに沿って方向さえ間違わなければ南鷹狩まで行けそうだった



が、変コツ山屋はそれではプライドが許さない。あえて林道を外して新雪を踏む。南鷹狩山のトラバースですでに昼近くなってしまった。それまでずっと樹林の間だったが、木が伐採されて展望の良い場所があった。鷹狩山の塔が見えて行けそうだが、いったんかなり下って登らなければならない。それからUターンすると遅くなってしまいそうなので、しばらく下の様子を見たが結局そこでランチにした。登りのルートをそのまま引き返すのも面白くないので、ブッシュをかき分けて進む。畑らしいところを抜けて湿原に出る。木道を少し歩いたが、木道に乗っている雪は50~60センチ程度か。車に着いたら14時を過ぎていた。

スタートを早めにしたなら鷹狩山まで行って、山岳博物館の少し上の除雪終点ポイントまで行けるのではないかと思った。

木曾西野峠・山吹山 2020.2/25~26 1泊2日

参加者 EIEI + 4

コースタイム・・・2/25 塩尻市役所 10:10⇒開田支所
11:20⇒発 11:45 林道入口 12:00⇒西野峠分岐 14:10⇒
土橋バス停 15:15⇒バス発 15:45⇒開田支所 16:05 木
曾福島宿 16:40

2/26 宿発 9:00⇒宮ノ越・徳音寺登山口発 9:45⇒10:
20⇒発 11:20⇒11:50

山行報告（感想など）・・・EIEI

2/25 西野峠・・・。

佐久方面からのメンバーが大幅に遅れ、開田支所に着いたのは昼近くであった。バスの時刻も計画の範囲しか調べていなかったの、止まっていた地域バスの運転手さんに聞く。そして西野峠の情報も訪ねると今はスノーシューも入っていないとか。通り抜けしてバスの時間まで4時間あるし本日泊という事もあり、準備して出発。天気は良いが風はある。

飛騨街道の一部の西野峠、ラッキーなことにスキーのトレースがなんとなく付いていた。しかしながら、積雪は70センチはあろうか埋まる。先頭を交代しつつ歩きはじめるが、佐久のメンバーのスノーシューの調子が悪い。なんと車で轢いてしまったらしい。ガムテープで応急処置をしたが剥がれてしまい、つぼ足で歩いたほうが良いと歩きだすも深雪のため、ずぼずぼと埋まる。ここで引き返しかと心に過る。私が見立てて修理する。ザックに引っ掛けていた細引きが役にたった。靴前部を固定するプラスチック製の金具が破損していた。再度スノーシューを付けて出発するが思いの外時間が掛る。峠の分岐に着いたのは14:10。展望台までは300mちょっと。夏道ならすぐそこであるがスキーのトレースは引き返してなく途切れている。樹幹にはピンクテープもない。なんとなくルートは分るし地図アプリもあるが時間を逆計算すると冒険を犯してまでの余裕はないと、ここで断念する。御嶽山・乗鞍岳の大展望を見せることがこのコース選んだ理由なのだが。帰りの西野集落へはトレースは全くなかったが地形を見ながら進むと間違いなくバス停に着いた。



2/26 山吹山・・・。

記憶通り、登山口に到着。また運がいいことにスノーシューの跡あり。順調に山頂ではなく狼煙台にある東屋に到着。メンバーが誕生日ということで、みんなでケーキでお祝いする。帰路はツボ足で埋まることなく軽快に下山出来た。



ヒヤリハットや危険箇所

※夏と冬のルートの違いをもう少し勉強することが大事と感じた。

準備に時間が掛り過ぎ。スノーシューの故障もアクシデント。

今回、細引きはすごく役にたった。持っはいたがそういう事に使う思考がなかったと仲間の感想。

持っはいたがザックの底に収納（私以外）。

翌日は手ぬぐいを細くちぎって縛ったが良かった。

冬山の短時間山行であったが、リーダー判断は難しいものがあった。

西野集落へ



山吹山からの展望

